



上田市自治会連合会会報

令和4年2月1日発行

【第5号】

発行：上田市自治会連合会

依然として猛威を振るう新型コロナウイルス感染症、5カ月前頃には重症化率が高いデルタ株が落ち着き始めたかと思っていたら、年末からは感染力が強い新たなオミクロン株の出現に憂鬱な日々が続きますが、各自治会におかれましては行事諸活動に少なからぬ支障が出ているものと思います。マスク着用、換気対策など基本的な感染対策を改めて再確認・徹底し、会議や事業は可能な限り延期等も止む無し、開催の場合には規模縮小・短時間を徹底することが肝要かと思います。会員各位のご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、上田市自治会連合会では「自治会の見える化」事業の一環として今年度、全241自治会の基礎的データを網羅したホームページを立ち上げるべく最終段階の作業に取り掛かっており、本年3月中には完成、多くの皆さまにご覧いただけるものと思います。尚、様々な制約がある中、上田市行政と全ての自治会の全面的なご理解とご支援がなければ本ホームページ立ち上げに至らなかつたこと、改めてご協力に感謝申し上げます。

末筆ながら、各自治会の益々のご繁栄ご多幸をご祈念申し上げますと共に、自治会諸活動に多くの皆さま方のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



上田市自治会連合会会長

中村 彰

令和3年度 市政三者懇談会

10月28日(木)、サントミューゼ多目的ルームにおいて、市、市議会、自治会連合会による市政三者懇談会を開催いたしました。

自治会活動における各種課題の中で、特に全市的な課題について、市・市議会・自治会連合会の三者により、情報共有・情報交換の場を設け、市政発展と行政と協働したまちづくりの推進を図ることを目的に、毎年開催しております。



市政三者懇談会での議題と主な内容については、次ページをご覧ください。

今年度の議題と主な内容

議題 1 地域の防災力向上について

窪田東塩田地区連会長

(1) 自主防災組織の活性化について

- ①消防団との連携が必要であるがどうか。
- ②避難訓練を中心とした防災訓練が必要であるがどうか。

- ①消防団との連携は必要不可欠。日頃から活動内容の役割分担の検討を行い、情報交換を行うことにより、連携が強化され、地域防災体制が確保されていく。
- ②避難誘導や避難所運営など多様な訓練を有事に備え取り組んでいただきよう、地域の災害リスクや実情に応じた訓練立案等の支援を進めてまいりたい。



(2) 地域の防災力向上について

- ・消防団員の確保に自治会が力を入れる必要があると考える。
消防団の確保のため、消防団員に対する自治会内での負担軽減の検討も必要。

- ①少子高齢化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への貢献意識の希薄等から、全国的に消防団員が大幅に減少しています。
- ②団員確保を含め、各地域の課題に対する情報交換を消防団と自治会、地域住民が話し合うことが重要。
- ③消防団は、地域防災を支える組織として、未来永劫無くしてはならない組織であることから、地域においても、消防団の重要性を御理解いただき、御協力を願いいたします。

(3) 自治会に合った災害時の連絡方法やシステムの構築について

- ・自治会もメールの一斉送信による避難指示の伝達という方法を検討すべき時期にきて
いる。自治会IT化システム導入に対する市
の考え方、検討状況をお聞かせいただきたい。

- ・ITを活用した伝達システムは多種多様にあり、
引き続き先進事例の収集等を行うとともに、自治会によるITを活用した新たな伝達手段の導入に
対しましては、必要となる通信機器等を自主防災組織防災用資器材購入補助金の対象品目に追加
するなど、取組への支援を検討したい。

(4) 災害時の避難場所の整備について

- ・災害時の避難場所は、安全と共に安心できる施設であることも重要。
避難場所の機能として、Wi-Fi整備、携帯電話充電設備、
備蓄倉庫等を計画的に整備していく必要があると考えるが
どうか。

- ・Wi-Fi整備については、現在、
指定避難所である小中学校や公民館等37施設に設置されている。
携帯電話充電設備については、現在保有している発電機の活用を基本
とし、昨年度よりポータブル蓄電池の導入を進めている。
防災用備蓄倉庫については、令和元年東日本台風災害等を踏まえ、
災害種別に左右されない倉庫配置として、今年度あらたに3か所の
増設を進めている。



議題 2 安全パトロール隊について

小林中央地区連会長



- 順番制、交代制等ではなく、ほとんど毎日10年以上続けられている方が多く、後任もみつからない状況も見受けられる。子供たちの安心・安全を見守る重要な活動を毎日、安心して続けてもらうためには、行政を中心とした何らかの関りが必要であると思うがどうか。



- 見守り隊の活動をしていただいている方と学校の子ども達との交流の場を設定し、「活動の喜び」や「やりがい」を持っていただけけるようなふれあいの場作りや見守り隊からの定期的な報告会を行い、職員や児童と共有を図る学校もある。こうした取組事例の情報提供を各学校へ行ってまいりたい。
- 今後も見守り隊の皆さまのお力を出来る範囲でお借りしながら、学校と教育委員会が連携し、必要な情報の共有を図りながら、児童の見守り活動を継続してまいりたい。

議題 3 住民自治組織の拠点について

山寺北部地区連会長

- 市では地域内分権を推進する施策の一つとして、地域住民が主体となり地域課題を解決したり、まちづくりを担う人材の育成を行える場、すなわち活動拠点の整備を掲げている。住民自治組織の設立目的の一つである自治会の枠を越えた委員会のメンバーが、主体的かつ柔軟に使える拠点の設置は必要と考えるがどうか。



- 活動拠点は、地域自治センターのほか今後は住民が主体となる新たな地域自治の仕組を推進するため、社会教育施設である公民館も活動拠点になりうる。現状では新たに施設を整備することは難しい状況であり、まずは既存の公共施設の空きスペースの利用について検討したい。どうしてもそれを確保できない場合には、民間施設の賃貸も視野に入れてご検討いただくこともありますが、活動に支障がないよう検討する必要がある。



消防団との懇談会開催



令和3年11月4日、自治会連合会と消防団との懇談会を初めて開催しました。

消防団からは正副団長と各分団長が出席され、市からも消防総務課、危機管理防災課が出席されました。

「消防団の現状と団員確保について」「ポンプ操法・訓練について」「災害対応について」「自治会とのコミュニケーションについて」意見交換を行いました。消防団からは「今までこのような話し合いがなかったのでありがとうございました」との声があり、これからはそれぞれの地域ごと（自治会単位や地区連単位）での話し合いが必要であり、お互いが開催に向け努力が必要との考えで一致しました。

役員研修会

災害関連の補償制度について

令和3年11月19日、「災害関連の補償制度について」役員研修会を開催いたしました。

地域防災体制の確保を進める上で自主防災組織と消防団との連携が重要になっていく中で、補償制度を認識しておく必要があるとの声を受け開催いたしました。

自治会単位で組織された自主防災組織（ボランティア）が行う防災訓練や有事における減災活動などにより、万一事故等が発生した場合は、市が加入している補償制度が適用されます。

また、救命目的でAEDの使用により負傷させてしまった場合、損害賠償請求等で訴えられることはありません。



「自治会に加入しましょう。」

いざというときは、自治会が頼りになります。たとえば、災害が起きたときには、隣近所の助け合いが必要です。

日頃からご近所同士の交流を大切にしましょう。

ぜひ、自治会への加入をお願いします。



編集後記

今年は厳しい寒さが続き、今から春が待ち遠しいです。新型コロナウイルスの影響によりマスクはすっかり定着しましたが、手洗い、うがいもしっかりとインフルエンザ対策もして、この冬を乗り切りましょう。お身体には十分お気をつけください。

上田市自治会連合会事務局

E-mail:jichiren@cityUEDA.nagano.jp

TEL 22-4130 (直通)

TEL 22-4100 (内線) 1308